

ツチクジラ 太平洋・日本海・オホーツク海

Baird's Beaked Whale, *Berardius bairdii*



管理・関係機関

農林水産省

生物学的特性

- 体長・体重：10～12 m（上顎先端から尾鰭分岐点までの長さ）・9～12 トン
- 寿命：雄 84 歳、雌 54 歳（捕獲物の最高年齢）
- 成熟開始年齢：雄 6～11 歳、雌 10～15 歳
- 繁殖期・繁殖場：交尾期 10～11 月、出産期 3～4 月・繁殖場は調査中
- 索餌期・索餌場：周年・房総、常磐沖ほか
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：シャチ

利用・用途

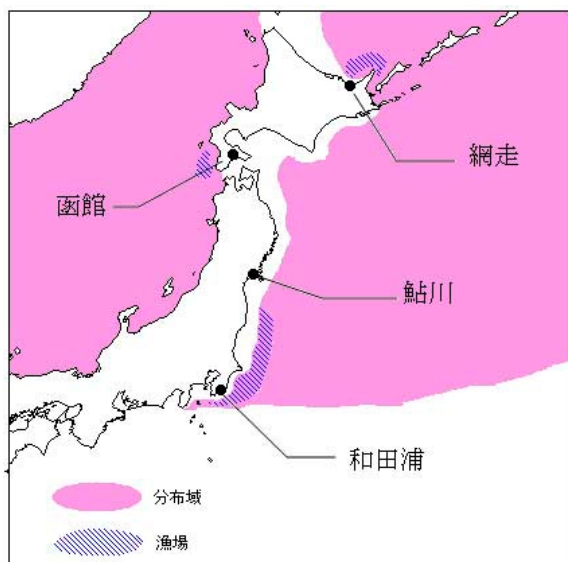
肉は房総半島周辺でタレと呼ばれる乾肉、他の地域では、生鮮肉、缶詰加工用肉など。脂皮は汁物。

漁業の特徴

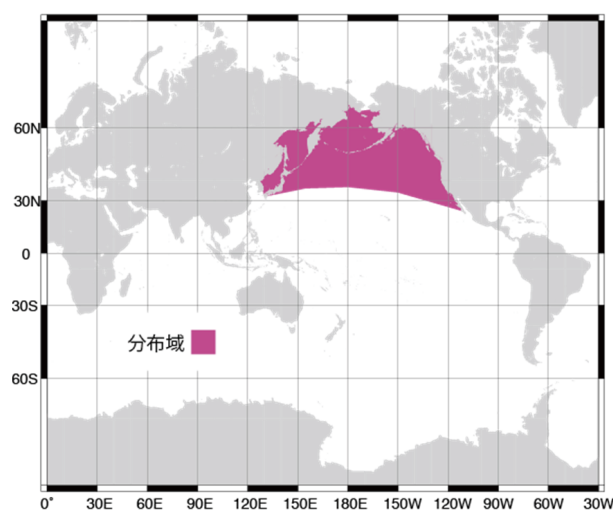
捕獲は少なくとも 17 世紀に遡り、明治時代初頭まで千葉県勝山沖を中心に手投げ鉤で捕獲していた。戦後、小型捕鯨業の捕獲が急増し、漁場も千葉県周辺から三陸、北海道、日本海沿岸まで広がった。本種は体長 10 m に達する歯鯨類だが IWC の管轄外種で、商業捕鯨モトラム以降も、我が国政府の管理の下に捕獲が継続している。現在の商業捕獲は大臣許可漁業の小型捕鯨業のみで、全国 4 か所（千葉県和田浦、宮城県鮎川、北海道網走、函館）の捕鯨基地で水揚げ・解体・処理されている。

漁獲の動向

太平洋側沿岸の捕獲が主体であり、1950～1970 年代初頭にかけて年間 100 頭を超える捕獲がなされた（自由操業）。1983 年に自主規制枠、1990 年に捕獲枠が導入され、1999 年以降は、年間捕獲枠 62 頭（太平洋沿岸＋オホーツク海 54 頭、日本海 8 頭）が設置されてきた。2005 年に枠の見直しがなされ、系群ごとに太平洋 52 頭、オホーツク海 4 頭、日本海 10 頭、計 66 頭の捕獲枠が設置された。2018 年は太平洋 62 頭（前年からの繰り越し 10 頭を含む）、オホーツク海 4 頭、日本海 10 頭、計 76 頭の捕獲枠の下に操業が行われ、53 頭を捕獲した。



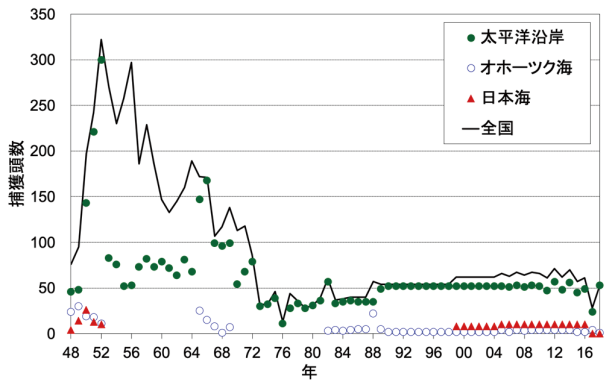
日本周辺におけるツチクジラの分布と漁場および水揚げ地（捕鯨基地）



ツチクジラの分布図

資源状態

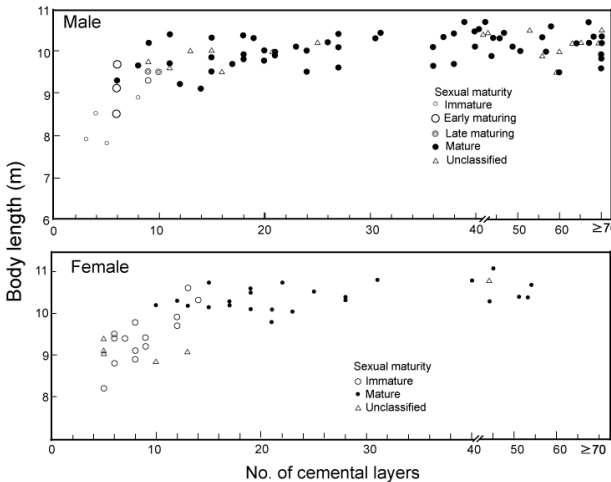
資源量の推定値は太平洋沿岸（北海道～相模湾）：5,000 頭（95%信頼区間 2,500 ～ 10,000 頭：1991 ～ 1992 年）、日本海東部：1,500 頭（同 370 ～ 2,600 頭：1983 ～ 1989 年）、オホーツク海南部：660 頭（同 310 ～ 1,000 頭：1983 ～ 1989 年）である。IWC の管轄外種のため、資源状態に関する国際合意はない。過去の統計は別種の混在の可能性もあり、1970 年以前の捕獲が初期資源に与えた影響は明らかでない。各系群の資源量推定値は 5,000 頭以下と小さく、分布範囲も限られていることから、資源水準は中位とした。捕獲物組成の動向は、資源の増減の兆候がないことから、資源動向は横ばいと考えられる。



ツチクジラ捕獲頭数の経年変化
1948 ～ 1993 年は粕谷 1995、1994 ～ 2018 年は国際水産資源研究所データより作成。

管理方策

IWC 科学委員会はひげ鯨類が対象の新たな資源管理モデル（改訂管理方式：RMP）を開発したが、社会構造（群れ構成や繁殖様式など）が複雑な歯鯨類には適用できない。推定資源量の約 1% を目安とした捕獲枠や、PBR（Potential Biological Removal：混獲動物の管理に米国で採用されている資源量、増加率などの不確実性を取り込んだ捕獲枠算出モデル）による試算値などを参考に農林水産省が捕獲枠を設定している。この他、農林水産大臣の許可漁業として、海域ごとに、操業隻数（5 隻）、水揚地を定めている。



体長と年齢の関係

ツチクジラ（太平洋・日本海・オホーツク海）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の捕獲量（最近 5 年間）	な し
我が国の捕獲量（最近 5 年間）	28 ～ 70 頭 最近（2018）年：53 頭 平均：53.8 頭 （2014 ～ 2018 年）
管理目標	現在の資源水準の維持
資源評価の方法	ライントランセクト法に基づく目視調査データ解析から資源量を推定する。
資源の状態	太平洋沿岸（北海道～相模湾）：5,000 頭（2,500 ～ 10,000 頭、1991 ～ 1992 年） 日本海東部：1,500 頭（370 ～ 2,600 頭、1983 ～ 1989 年）（過小推定の可能性大） オホーツク海南部：660 頭（310 ～ 1,000 頭、1983 ～ 1989 年）（過小推定の可能性大）
管理措置	年間捕獲枠 66 頭（日本海 10 頭、オホーツク海 4 頭、太平洋 52 頭） 洋上解体禁止と水揚地の限定（日本海：函館、太平洋：鮎川、和田浦、オホーツク海：網走） 操業許可隻数（延べ数）（日本海：1 隻、太平洋：4 隻、オホーツク海：3 隻）
最新の資源評価年	2012 年
次回の資源評価年	未定